

には、リンクがあります。 は、WAMNETの事業者情報にリンクします。

事業所名 グループホーム 井原ラーゴム

日付 平成19年3月30日
評価機関 特定非営利活動法人
 ライフサポート

評価調査員 在宅介護経験15年

評価調査員 ケアセンター介護支援専門員経験5年

自主評価結果を見る (まだリンク先はありません)

評価項目の内容を見る

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)

外部評価の結果

講評

全体を通して(特に良いと思われる点など)

昼前になって、ゆっくりお目覚めの利用者がリビングへ出て来た。「丁度よかった。お昼ご飯は稲荷寿司よ」職員が明るく迎える。お風呂は朝から準備OK。空いていればいつでもどうぞ。食卓の椅子も場所は決めていない。その日の気分で、この人の横、あちの席、どこに座ってもよい。管理者、職員共に若く、丁度利用者の孫の感じ。活気があって、年長者への敬愛の気持ちが、その言動に伺える。利用者への規制や強制が殆んどない。「友達の家に遊びに行きたい」「自分の家にちょっと帰りたい」「買物に行きたい」「馴染みの美容院に行きたい」利用者一人ひとりの希望に出来る限り応えたいという管理者の思いは、孫と祖父母の家を創った。普通の家にいるように、のびやかにしたい事ができているのは嬉しい驚きだ。ホームは地域の自治会に入り、会合や行事に参加している。過疎の地区なので「若い人が来てくれると助かる」と言われ、草刈では職員が大活躍。ゴミ当番も回覧板も来るので、地域の様子がよく分かる。祭りの神輿も来てくれたし、運動会ではホームの席まで用意して待っていてくれた。選挙の時は皆で投票に行った。ホームで餅つきをしたので、いつもお世話になっている人所の人に配ると、代わりに野菜を戴いた。「こちらからも出掛けて行き、情報提供して、認知症の理解を広げたい。そして、それをホームのケアに繋げていきたい」と管理者は言う。ホームが1つの家として認められ、してもらったお返しに近所づきあい上手くできている。若さ溢れる職員や管理者の熱意と地域の力が上手く作用して、利用者を含み、「井原ラーゴム」という家が誕生している。

特に改善の余地があると思われる点 次のような提案をした

日々の介護記録もきちんと出来ている。これに利用者のこれまでの人生歴の把握ができれば言う事なしだ。利用者の言動の背景が理解できればより良いケアができる。家族との交流を深め、利用者の事を色々教えてもらい、共に利用者を支えていけたら素晴らしい。これだけうまく地域との付き合いができていけるのだから、是非きのこ村のお祭り(例えば夏祭り等)を企画して欲しい。夏休み帰省中の孫等連れて、地域の人が皆で遊びに来てくれそうだ。様々な活動をしているので、その時々を写真をアルバムにまとめてはどうだろう。ホームの歩みを伝える貴重な写真集ができそうだ。利用者や家族に見てもらっても楽しい。

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か		
	ホームの最高齢おAさん、「私の姉はとて負けん気の強い人で、いつも頑張っていた。でもね、頑張り過ぎると良くない、体悪くなるから。いい加減でいいのよ」そんな話をしながら、昼食の稲荷寿司を作る。Aさんは、職員が寿司飯を入れた油揚げの形をまとめる係。「もう疲れた? やめる?」職員が声をかけると、「まだできる。まだする」と言う。頑張り屋の血筋は争えぬ。Aさんは体調を崩し1ヶ月程入院していた。高齢でもあり、食事、水分を自分から摂らなかつた為、無気力で寝たきりに近い状態になってしまった。ホームへ帰れるか危ぶまれたが、家族の強い希望もあり、取り敢えず様子を見ようと、退院した。徐々に会った他の利用者は、「どしたん? いなかったね」と心配して、声をかける。次々に気かけられると、無気力でなっていてられない。少しずつ食べる様になり、1ヶ月経過した今は見違える程回復。春になれば車椅子から元の様に杖歩行できるかも知れないそうだ。互いに認め合い、支え合い、共に生きるホームの良さを感じた。		

生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か		
	居室は和室と洋室があり、各部屋トイレ、洗面所付、入口の引き戸の格子模様が、少しずつ異なるこだわりの造りだ。広い廊下の途中には飾り棚もあり、お洒落な感じ。その先の暖簾をくぐると、そこからは共有スペース。2つの食卓のリビングと厨房、その横にはテレビとソファの寛ぎコーナーもある。食卓の椅子はどこに座るのも自由。好き勝手に皆であちこち座り、何かの拍子に一人ボツンと居る時があっても大丈夫。さり気なく職員が傍らに来てくれて一人きりにならない。全体をよく見ていると感心する場面を何度も見た。		

ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人のできることへの配慮		
15	入居者一人ひとりにあわせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にされた整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物の支援		
23	痴呆の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		

記述項目 一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か

昼食は、稲荷寿司と大豆のサラダ、あさりの汁物。あちのテーブルでは、稲荷寿司作り。皆ビニール手袋して、油揚げの中に寿司飯を詰める。最初の椅子に座っていたのに、夢中になると、何時の間にか立ち上がって作業しているのが可笑しい。こっちのテーブルでは、大豆サラダの準備。ハムを切る人、あえる人、味塩が容器の穴からでているのが見えず、パッパと元気に振ってしまい、「ん?」味見して「大丈夫!」と安心する人もいる。何もしたくない人は、あちのテーブルに行ったり、こっちへ来たり野次馬さんになる。「あら、まあ!」何かにつけてケタケタと笑う。彼女の笑顔は、もう最高!こんな風に笑えたらと憧れてしまう。見てるだけで幸せ気分だ。「もう!何が可笑しいん?」言いながらつられて笑う。笑いの連鎖が広がって、皆で大笑い。やりたい事、出来る事を、やりたいだけ、出来るだけすれば良い。自然で無理はない。だからこのホームには笑い声が多い。

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
33	家族への日常の様子に関する情報提供		
34	地域との連携と交流促進		
35	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か。		
	ホーム1階にはお泊りもできるデイサービスが、隣接してケアハウスやきのこ診療所がある。ケアハウスにいる夫が、ホームの妻を訪問したり、デイサービスに来ていた人が、ホームの住人になる事もあるそうだ。1階のデイサービスとホームは、合同ミーティングをして助け合っている。母体法人関連機関と連携できる強みがある。高齢者向けのカルチャーセンターや、誰でも利用できる喫茶コーナーを作ったりと、周辺は時代の最先端を行く。一歩進んだ「きのこ村」が形成されている。地域との交流も積極的に行い、住民の理解も得ている。医療と介護、デイサービス・ケアハウス・グループホームといった様々な垣根を越えて、新しい発想の理想の村造りができかけている。認知症啓発の拠点として、介護の活動を期待している。		